

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：18001

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2023

課題番号：17K02419

研究課題名（和文）琉球和文学の注釈研究とそれを活かした教材開発

研究課題名（英文）Research on annotations of Ryukyuan Japanese literature and Development of teaching materials using them

研究代表者

萩野 敦子 (Hagino, Atsuko)

琉球大学・教育学部・教授

研究者番号：90343376

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：現在、日本の学校（ここでは多くの日本人就学者が一定程度の古典に接する高等学校を指す）における古典教育は岐路に立たされている。2022年度より高等学校国語科の科目が再編成され、今後古典は第1学年の必修科目「言語文化」と第2・3学年の選択科目「古典探究」において学ばれる。これらの科目における古典の学びは今次学習指導要領が示す学力観に従い、「知識・技能」修得主義から「思考力・判断力・表現力」の獲得・伸長と「学びに向かう力・人間性等」の涵養を目指すものとなった。このような背景のもと、近世琉球において生まれた文学はどのような学びを高校生に提供することができるのか、教材開発を軸に据えることで具体化した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「研究成果の概要」で述べたように、本研究は今次学習指導要領が示す学力観に基づいた古典の学びにおいて、近世琉球に生まれた文学（研究題目は「和文学」としたが、研究を行うなかで「琉球で書かれた漢文」も含むこととなった）がどのような学びを高校生（特に沖縄県の高校に学ぶ学習者たち）にもたらすかを追究するものである。国際化・ボーダーレス化が進む現代だからこそ、自分が生まれ育った地に根ざす古典文学を学ぶことは、自己肯定的なアイデンティティを育むために必須である。また、和文学にせよ漢文にせよ、近世琉球で生まれたこれらの文学は日本文学の一つの流れとして認められるべきであり、本研究はそれに資するものとなっている。

研究成果の概要（英文）：Classics education in Japanese schools (here, we refer to upper secondary schools where many Japanese are exposed to the classics) is currently at a crossroads. From 2022, classics will be taught in the compulsory first-year Japanese language subject “Language and Culture” and the second- and third-year elective subjects “Classics Exploration”. The study of classics in these subjects will be based on the academic standards of the new Courses of Study, which aim to acquire and develop “the ability to think, judge, and express” and to foster “the ability to learn and humanity,” rather than the “knowledge and skills” that have been emphasized up to now. Against this background, we have been exploring what kind of learning literature born in the Ryukyu Islands in the early modern period could offer to high school students, and have materialized it mainly through the development of teaching materials.

研究分野：日本文学（特に中古散文文学）

キーワード：琉球和文学 琉球漢文 擬古物語 高等学校国語科 学習指導要領 言語文化 古典探究

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初、文系学問の危機に関係する学会や学術書が相次いで「文学研究と文学教育の結合」をテーマとする学術書の刊行や学会シンポジウムの開催が相次いだ。それは、文学をめぐる研究の世界と教育の世界が乖離していることに警鐘を鳴らすものであり、とりわけ古典文学についてはいわゆる「古典嫌い」を生む学校現場での授業の在り方など危機感が強かった。本研究はそれを十分に意識するとともに、研究代表者が住む沖縄県のような辺境の文学を日本文学の潮流に位置付け、沖縄県に学ぶ就学者たちに自分たちが生きている地域に根差す文化を学んでもらうことで、自らのアイデンティティを自己肯定感をもって確認してもらうことを目指そうと考えた。そのことは、すでに内容が公表されていた新たな学習指導要領(2020年度の小学校を皮切りに順次中学校、高等学校と実施開始)がうたう三つの学力のうちの一つ「学びに向かう力、人間性等」を育むことにも十分に関連するものである。

2. 研究の目的

上記の背景のもと本研究では、沖縄が沖縄県となる以前の(つまり琉球の)古典文学を通して、「生まれ育った、あるいはこれから根を下ろして生きていきたい地域(郷土)」への深い愛着と理解とを涵養するための古典教育を目指すこととした。研究代表者はこれまでも、複数回獲得した科学研究費による研究の成果を土台に、琉球古典文学の掘り起こしを手がけてきた。それらは専ら琉球において生まれた「作り物語」(日本古典文学史の学術用語だが、単純に言えば「フィクション」というべき「擬古文物語」)を相手にしてきたが、本研究においては地域に伝わる歴史語りや伝説・伝承といったものを古典教材として提示することも「地域(郷土)への深い愛着と理解」の涵養のための、非常に有効な手だてになると考え、対象を歴史・伝承を記しとどめる漢文や和歌などにも広げた。地域で生まれたさまざまな古典に触れることは、国際化・情報化・電子化等々によるワールドワイドな環境に生きる子供たちにとって、足元を固め、自己を見失わず、自尊感情ひいては他者を尊重する感情を保ちながら逞しく生きていくための手段となるはずである。

3. 研究の方法

近世琉球に生まれた和文学(擬古文物語や和歌)や琉球の歴史や伝承を伝える漢籍『中山世鑑』『遺老説傳』を用いて沖縄版「伝統的な言語文化」として教材化(中・高校生向けの古典教材および大学生向けの講読テキスト)を進める。同時に、2022年度から実施される学習指導要領のもと再編成される高等学校国語科の新科目「言語文化」「古典探究」の教材として馴染むよう、両科目の特色や教材構成を見極め、それを踏まえた教材のありようを工夫する。

4. 研究成果

本研究において「すべきこと」は明確であったが、申請時に設定した研究期間(2017年度~2020年度)および研究を延長した期間(2021年度~2023年度)においては、コロナ禍に見舞われたほか、2年間を教育研究評議員、4年間を教育学部長として過ごすこととなり、公務・校務に忙殺され、研究の進捗は当初の想定どおりにはいかなかった。しかしながら期間内には、新学習指導要領下の高等学校国語科の新科目「言語文化」「古典探究」の教科書

(それぞれ 17 種、14 種)の発行があり、それらにおける古文分野の教材を一覧できる資料の作成など、土台となる作業は進めることができた。

発行所	東京書籍	東京書籍	東京書籍	三省堂	三省堂	三省堂	教育出版	教育出版	教育出版	大修館	大修館	大修館
教科書番号	国総332	国総333	国総335	国総337	国総338	国総339	国総341	国総342	国総343	国総345	国総346	国総347
教科書名	新編国語総合	精選国語総合	国語総合/古典編	高等学校国語総合/古典編(改訂版)	精選国語総合(改訂版)	明解国語総合(改訂版)	精選国語総合/古典編	国語総合	新編国語総合	国語総合(改訂版)/古典編	精選国語総合(新訂版)	新編国語総合(改訂版)
著者	①古文入門/古文の世界へ	①古文入門	①古文入門	①説話	①説話	①古文入門	▽古文を学ぶ	▽古文を学ぶ	①古文入門	①古文入門	①古文入門/古文に親しむ	①古文に親しむ
	▽古文に親しむ(宇治拾遺物語)	▽見のそら寝(宇治拾遺物語)	▽非違傳(今昔物語集)	▽見のそら寝(宇治拾遺物語)	▽見のそら寝(宇治拾遺物語)	▽見のそら寝(宇治拾遺物語)	▽古文の世界へ	①説話	▽古文入門	▽古典の魅力を再発見しよう	▽古典の魅力(野村胡堂)	▽古典の魅力(野村胡堂)
	▽見のそら寝(宇治拾遺物語)	▽非違傳(今昔物語集)	▽結城良秀(宇治拾遺物語)	▽結城良秀(宇治拾遺物語)	▽非違傳(今昔物語集)	▽見のそら寝(宇治拾遺物語)	▽見のそら寝(宇治拾遺物語)	▽見のそら寝(宇治拾遺物語)	▽見のそら寝(宇治拾遺物語)	▽見のそら寝(宇治拾遺物語)	▽なみのの(宇治拾遺物語)	▽なみのの(宇治拾遺物語)
	▽角光と白波(今鏡)	▽結城良秀(宇治拾遺物語)	▽大江山の歌(十訓抄)	▽大江山(十訓抄)	▽結城良秀(宇治拾遺物語)	▽非違傳(今昔物語集)	▽見のそら寝(宇治拾遺物語)	▽見のそら寝(宇治拾遺物語)	▽老翁の水練(古今著聞集)	②説話	▽結城良秀(宇治拾遺物語)	▽阿蘇の史(宇治拾遺物語)
	▽結城良秀(宇治拾遺物語)		▽歌の集(今昔物語集)				▽正直の徳(沙石集)	▽羅城門(今昔物語集)	▽見のそら寝(宇治拾遺物語)	▽阿蘇の史(宇治拾遺物語)	②説話/説話を集めて	▽見のそら寝(宇治拾遺物語)
		②随筆		②物語	②物語	②随筆	▽鬼の笛(十訓抄)		▽老翁の水練(古今著聞集)	▽猿、思を知る(沙石集)	▽見のそら寝(宇治拾遺物語)	②随筆の楽しみ
	②随筆/日々の思い	▽徒然草	②随筆1	▽竹取物語	▽竹取物語	▽徒然草		②随筆		▽阿蘇の史(宇治拾遺物語)	▽阿蘇の史(宇治拾遺物語)	▽阿蘇の史(宇治拾遺物語)
	▽徒然草	▽阿蘇守安楽園	▽徒然草	▽かきや姫の生立ち	▽かきや姫の生立ち	▽公世の二位のせうと	②随筆	▽徒然草	②随筆	②随筆	▽阿蘇の史(宇治拾遺物語)	▽枕草子
	▽龜山殿の御池に	▽丹波に出雲といふ所あり	▽丹波に出雲といふ所あり	▽かきや姫の成長	▽かきや姫の成長	▽高名の木立り	▽徒然草	▽つれづれなまに	▽徒然草	▽徒然草	▽阿蘇の史(宇治拾遺物語)	▽春はあけぼの
	▽奥山に、猫またいふものあり	▽神無月のころ	▽ある人、弓射ることを窓に	▽伊勢物語	▽伊勢物語	▽丹波に出雲といふ所あり	▽つれづれなまに	▽龜山殿の御池に	▽高名の木立りといひし男	▽これれ仁和寺の法師	③随筆/古人の感性	▽くさぎの

(作業の一例: エクセルで作成した「言語文化」各教科書の採録教材リスト)

また、近世琉球に詠まれた和歌 1400 余首をエクセルに入力し、データベースを作成することができた。全体になだらかで平易な歌が多く、高校生の教材には適していることはわかっているが、教材化には至らなかった。

番号	和歌	作者	題名
1425	いにしへのいかなることもうらやまぬこのおほみよにあひにけるかな	(幸逢太平代)	朝宏
1426	やまにすむとりもけものもわがきみのぬくにもれしものなかりナリ	(幸逢太平代)	朝常
1427	うきぎのまたのもかめよりこのみよにあひぬるみこそうれしかりけれ	(幸逢太平代)	盛登
1428	きみがよはなみのうへにもみちありてひらけぬくにもひらけつるかな	(幸逢太平代)	朝置
1429	かくばありをさまれるよにあはざらばつきとはなとにかであそばん	(幸逢太平代)	盛元
1430	のにあそびいちになつたひてなりわひもわするばかりになれるみよかな	(幸逢太平代)	全道
1431	みやこよりとほやまざとのほてまでもみよをうたはぬひとなかりナリ	(幸逢太平代)	朝要
1432	ゆみやをもちとでをさまるおほみよのひかりあふがぬひとなかりナリ	(幸逢太平代)	正益
1433	せぎのともとざさぬみよはものふもたちのをきてあそびけるかな	(幸逢太平代)	朝祥
1434	しぎしまのやまとしまねにさくはなををりてかざしてあそぶみよかな	(幸逢太平代)	良政
1435	のどかなるみよのしるしははるあきのつきとはなとすがたなりナリ	(幸逢太平代)	正元
1436	つきはなのかげものどけきおほきみのみよにあふみぞうれしかりける	(幸逢太平代)	紀恭
1437	ゆたかなるみよにしあればとりすらもあちほひるまであそぶなりナリ	(幸逢太平代)	賢福
1438	おほきみのみよのひかりにかしこくもみなよろこびのまゆひらきつつ	(幸逢太平代)	正起
1439	いにしへのひとにまさりてうれしきはこのおほみよにあへるなりナリ	(幸逢太平代)	朝保

(エクセルで作成した近世琉球成立の和歌集『沖繩集』収載歌のデータベースの一部)

こういった基礎的な作業を行うかたわら、擬古文物語(注1)や琉球漢籍(注2)のなかから、高等学校国語科の教材になりうる素材を探していった。条件としては、掲出する箇所のみで内容がある程度完結していること、何らかのメッセージ性が読み取れること、古典文法や漢文句法など、古文・漢文の読解に必要な知識を問えること、等である。

こうして擬古文物語を用いて古文教材化したもの、琉球漢籍を用いて漢文教材化したものについては、勤務する琉球大学教育学部の一般選抜前期日程の試験問題に活用することにした。というのも、本学部は沖縄県唯一の国立(大学法人)の教員養成学部として、沖縄の教員を養成する責務があるため、入試問題には沖縄らしさを出そうと努めている。(もちろん、受験生に不公平があってはならないので、沖縄・琉球のことを知らなくても十分に対応できる問題内容であることを意識して作成。ただし、県内高校生であっても、残念ながら出題した琉球生まれの古文・漢文を知っている者はほとんどいないはずである。)また、沖縄・琉球について学んでほしい、知ってほしいというメッセージを学校現場に発信するには、入試問題というのはわかりやすいメディアである。研究期間内に作成し、実際に出題した琉球生まれの古文・漢文を素材文とする入試問題は、下記のとおりである。

2017年度実施：平成30年度前期日程入学試験「国語」大問三(古文分野)
平敷屋朝敏の擬古文物語『萬歳』より出題
2019年度実施：令和2年度前期日程入学試験「国語」大問三(古文分野)
平敷屋朝敏の擬古文物語『貧家記』より出題
2020年度実施：令和3年度前期日程入学試験「国語」大問三(古文分野)
『遺老説傳』より浦添郡(現在の浦添市)に稲作を伝えた安嘉之子の伝説を出題
2021年度実施：令和4年度前期日程入学試験「国語」大問四(漢文分野)
18世紀前半の琉球王国で活躍した政治家・蔡温が著した漢文より出題
2022年度実施：令和5年度前期日程入学試験「国語」大問三(古文分野)
作者未詳の擬古文『浮繩雅文集』より出題
2023年度実施：令和6年度前期日程入学試験「国語」大問四(漢文分野)
『遺老説傳』より八重山地方に伝わる西嘉和良・東嘉和良兄弟の村立て伝説を出題

こうして入試問題を作成しながら実感したことは、入試問題程度の文量の素材文と「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」をはかる設問が準備できれば、高等学校の国語科の授業においても投げ込み的に教材として扱う可能性があるということである。同時に、県内高校生に対して「沖縄にこのような古典文学/伝承があるのか」と実感してもらえる機会ともなるはずである。引き続き、このような単発的な教材を作成しながら、それを国語科の科目「言語文化」「古典探究」のカリキュラムのどこに取り込めばよいかを明確にし、学校現場に提供するイメージを膨らませていきたい。

(注1)擬古文物語については、近世琉球を代表する文学者である平敷屋朝敏(1700-1734)が残した四編『若草物語』『苔の下』『貧家記』『萬歳』については研究代表者自身が校注作業を行ったテキストがある。また、朝敏以外が残した擬古文については、研究期間中に島村幸一・小此木敏明・屋良健一郎編『訳註琉球文学』(2022年3月、勉誠出版)が刊行され、教材化にあたってテキスト(原典)として活用した。

(注2)漢籍については、身近な地域にまつわる伝承が多く掲載される『遺老説傳』を専ら教材化した。用いたテキスト(原典)は嘉手納宗徳『沖縄文化史料集成6・琉球外巻遺老説傳』(1978年9月、角川書店)である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 萩野敦子	4. 巻 1
2. 論文標題 中世王朝物語の引歌表現 その 歌撰び の概要	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『中世王朝物語の新展望』	6. 最初と最後の頁 124-143
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 萩野敦子	4. 巻 -
2. 論文標題 近世琉球に再生する「みやびを」たち 平敷屋朝敏の擬古文物語をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 翰林書房『狭衣物語 変容 』	6. 最初と最後の頁 293-315
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 萩野敦子	4. 巻 106
2. 論文標題 新たな古文教材の可能性 定番外 の中古・中世王朝物語を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中古文学	6. 最初と最後の頁 26-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 萩野敦子	4. 巻 16・17
2. 論文標題 愛 なき『竹取物語』は国語科教材に相応しいか 教科書教材と絵本「かくやひめ」の現在から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 琉球大学言語文化論叢	6. 最初と最後の頁 83-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 萩野敦子	4. 巻 6
2. 論文標題 狭衣と源氏宮 その形代となる宮の姫君まで	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 知の遺産シリーズ『狭衣物語の新世界』	6. 最初と最後の頁 93-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 萩野敦子	4. 巻 -
2. 論文標題 『狭衣物語』諸本を 斜行 する古歌 - 「あな恋し」歌の引用をめぐって	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『狭衣物語 文学の斜行』	6. 最初と最後の頁 115-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 萩野敦子
2. 発表標題 鈴木泰恵氏『狭衣物語 モノガタリの彼方へ』を読む
3. 学会等名 狭衣物語研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 萩野敦子
2. 発表標題 新学習指導要領下の高等学校国語科における古典 (古文) の学び
3. 学会等名 狭衣物語研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 秋野敦子
2. 発表標題 新たな古文教材の可能性 定番外 の中古・中世王朝物語を中心に
3. 学会等名 中古文学会（特別企画オンラインシンポジウム）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 秋野敦子
2. 発表標題 近世琉球に再生する「みやびを」たち 平敷屋朝敏の擬古文物語をめぐって
3. 学会等名 狭衣物語研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 秋野敦子
2. 発表標題 教員養成学部で目指す、 専門性 と 汎用性 を両立させる古典の学び
3. 学会等名 西日本国語国文学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------